

## コロナ禍でも今できる地域のつながりづくり

社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会 玉川地域社会福祉協議会事務所

野木 未希、佐藤 里紗

(地域 つながり)

### 1. 問題の所在と取り組みの目的

令和2年度から新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地区活動の中止等が相次いだ。これまで、地区活動を通し、地域住民同士がつながりあうことができていたが、地域のつながりが途切れてしまう状況となった。

そのような状況下でも、地域社協事務所として何かできないか？今だからできることについて検討し始め、6つの取り組みを行った。



### 2. 実践内容

#### (1) 食と職 W応援プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、特例貸付の受付窓口を開設し、相談受付からお金だけではなく食事や仕事に関する困りごとが多いことを把握した。そのことから、少しでも困っている方の生活の一助になればという思いでW応援プロジェクトを開始した。

食: ご家庭で余っていて不要になった食品をご持参いただき、社協を通して困っている方へお渡しする取り組み

職: 離職等を余儀なくされ仕事に困っている方に働く機会の創出を通じた取り組み

#### (2) 困りごと解決プロジェクト

コロナ禍で浮上した困りごとを地区サポーターの力で解決していくプロジェクトを開始

①体操 ②オンライン ③防災 ④認知症 ⑤ちょこっとサービス

#### (3) つながりの輪プロジェクト

コロナ禍で外出自粛が続く中で、サロン、ミニデイの代表者へ“困りごとアンケート”と“がんばろうメッセージ”を募集し、寄せられた多くのメッセージをホームページや地区通信等で地域へお届けした。

#### (4) 福祉作業所応援プロジェクト

新型コロナウイルスの影響で福祉作業所の自主生産品の需要が落ち込んだ。福祉作業所に通う方々の生活や前向きになる気持ちを応援するため、地域の協力を仰ぎながら、玉川地域自立支援協議会と協力し、自主生産品の購買活動を支援する「福祉作業所応援プロジェクト」を開始。自主生産品の紹介・周知協力と社協の事業でも販売会を実施した。

#### (5) オンラインDEつながるプロジェクト

コロナ禍において、人と会いにくい状況が続く中で、「会わなくてもつながるツール」の一つとして、オンラインの需要が高まった。地域事務所では、シニア層の孤立予防を目的としたオンラ

イン体験会を開催した。

#### (6)地域デビュープロジェクト

地域活動に興味がある方を対象に、コロナ禍でも食事を伴う通いの場の実践と、低栄養とフレイル予防の関係について講座を行い、体力低下予防の観点からも、With コロナの地域福祉活動や社会とのつながりづくりの重要性について意見交換を行った。

### 3. 結果

新型コロナウイルスの影響により、これまでの生活が一変し、地区活動などの中止が相次いだ。そのような状況の中でも、コロナ禍で起きた困りごとに対して、地域住民の方々と何ができるかを考え、課題解決に向けて6つのプロジェクトに取り組んだ。

コロナ禍となり、高齢者の体力低下予防などの観点からも運動だけでなく、社会とのつながりや地域交流などの社会参加、地域福祉活動が重要であると把握した。これまでの社協のサロン活動での地域住民同士のつながりや支え合う関係性の大切さを再確認することができた。



### 4. 今後の課題と考察

新型コロナウイルスの終息はまだ見えない状況下ではあるが、継続している取り組みを引き続き行い、地域住民の方々と共に地域のつながりが絶えないよう、地域事務所として取り組み、発信していきたい。そして、取り組みを続け、地域共生社会の実現に向けて、誰もが支えあい、心をつないだ玉川地域を目指していきたい。

#### <助言者コメント>

神田 裕子（東京医療保健大学医療保健学部医療栄養学科准教授）

新型コロナ感染拡大が続く困難な状況の中、地域の方々と一緒に乗り越えていくために、今、どのようなことができ、必要とされているのか。コロナ禍ではどのような困りごとが起きているのか。

地域の人々の視点（目線）に寄り添ったご報告を拝見し、改めて「地域社会で暮らすこと、人々との繋がりについて」考える機会となった取り組みです。このような実践活動に取り組まれた玉川地域社会福祉協議会事務局のみなさま方に敬意を表します。地域の中において大切な「心を通わせたふれ合い」が制限される状況でも、幅広い年齢層の方々に対して新たなつながりを工夫しながら、進めてこられたことはご苦労があったことだと思います。

世田谷区には社会福祉・栄養（食）・スポーツなどの多様な専門性をもった大学等の教育機関も多くあることから、学生さん、先生方との協働連携をお尋ねしたところ、子ども食堂や学習支援などの協力・連携ができればと考えておられるとのこと。玉川地区外ということも関連があるようですが、是非このような制約を乗り越えて、いろいろな方が参画できるよう、活動門戸を広くいただくと、より充実した実践活動に繋がると考えます。

また、今回の地域デビュープロジェクトは単発事業とのことですが、こちらも区内のマンパワー等、身近にある「資源」を活用した交流が意見交換の場に発展していくことを希望します。特に高齢者の低栄養・フレイルの問題は、若い頃からの理解と支援（情報提供・共有）が重要になります。

コロナ禍での活動継続には、これまでに経験のないような、様々な工夫や改善も必要になると思いますが、今後も是非活動を継続されて「地域の中での繋がり」を続けていかれることを期待しています。